

DeNAゲームセキュリティの攻と守

DeNA
nevermoe

アジェンダ

- 自己紹介兼仕事紹介
- 攻：プラクティカルスマホゲーム
デバッキング
- 守：チート対策ソリューション

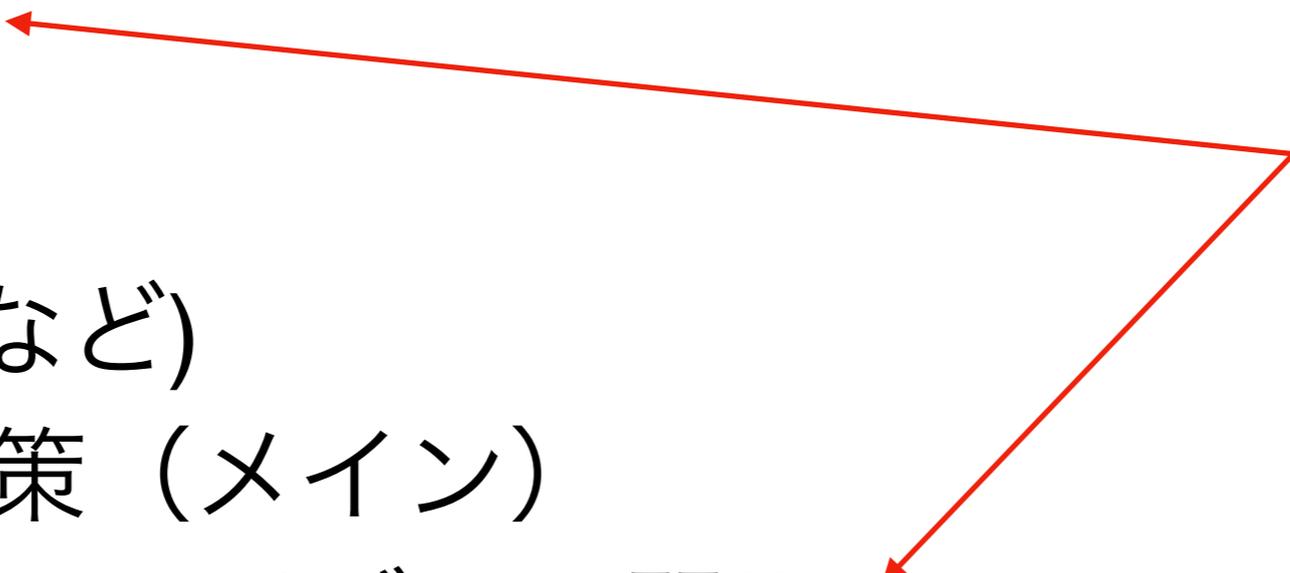
自己紹介

- nevermoe
- GitHub : <https://github.com/nevermoe>
- ツイッター : @nevermoecom
- 発表資料 : <https://www.nevermoe.com/docs/>

仕事紹介

- 診断（メイン）
 - ❖ ゲーム
 - ❖ ウェブ
 - ❖ 他(IoTなど)
- チート対策（メイン）
 - ❖ ツール、ライブラリ開発
 - ❖ チート情報調査
- プラベートSOC（サブ）
- Log管理運営（サブ）

今日のテーマ



一般的な診断

- クライアントに重要ロジックがない (のが多い)
- ホワイトボックス+ブラックボックス

ゲーム診断の特徴

- クライアントに重いロジックが多い
- ブラックボックス診断が多い
 - ❖ 開発が社外などソースコードもらえない場合がある（同意を得た上で診断）
 - ❖ ソースコード読んでも、最終バイナリでないと弱み分からない

ゲーム診断のスキル

- リバーシング！
 - 静的解析
 - 動的解析
 - デバッギング ← 今日のテーマ
 - フッキング
 - などなど

(攻) スマホゲームデバッグ

- なぜデバッグ？
 - ❖ 静的分析が難しい！

(攻) スマホゲームデバッグング

- 何ができる？なんでも出来る！
 - ❖ ファイルの暗号化を解く
 - ▶ セーブデータ
 - ▶ ゲームアセット、リソース
 - ▶ シンボルデータ
 - ❖ 検知ロジックを特定
 - ▶ Root / 脱獄検知
 - ▶ デバッグ検知
 - ▶ コード改ざん検知
 - ❖ ゲームロジック特定
 - ▶ 通信ペイロード暗号化ロジック

TIPS:
hardware breakpointと
watchpointを活用しよう

一般的なデバッグ手法

- Android (Root化端末): ndk-gdb

```
// on Android
```

```
# setenforce 0
```

```
# ./gdbserver tcp:9090 --attach [pid]
```

```
// on PC
```

```
$ adb forward tcp:9090 tcp:9090
```

```
$ gdb
```

```
(gdb) set architecture arm
```

```
(gdb) target remote :9090
```

TIPS:

1. arm32のゲームが多くて、gdbserverの32bit版使った方がsymbolがロードされる
2. breakpointを設置前にset arm force-mode [thumb|arm|auto]

一般的なデバッグ手法

- iOS (脱獄端末): lldb

```
// on iOS
```

```
# /Developer/usr/bin/debugserver 0.0.0.0:9090 -a [pid]
```

```
// on PC
```

```
$ iproxy 9090 9090
```

```
$ lldb
```

```
(lldb) platform select remote-ios
```

```
(lldb) process connect connect://localhost:9090
```

TIPS:

1. iproxyを使ってポートフォワーディングするとUSBからiphoneに繋がる

早期デバッガアタッチ

- こういうシナリオありませんか？

- ゲーム**起動直後**に**一回しか走らない**関数をデバッグしたい
 1. ゲーム起動直後にRoot検知 / Anti-debuggingなどでクラッシュ
 2. Packerを解析したい
 3. **起動時ファイルを復号 (*例)**



通常手法でデバッガをアタッチしても間に合わない

早期デバッガアタッチしよう！

早期デバッグアタッチ

- 愚直なやり方
 - 無限ループでプロセスの起動を待つ

```
# sh wait.sh 'your.package.name'
```

```
// wait.sh, pseudo code
while true
do
  PID=`pgrep $1`
  if [ -z $PID ]; then
    echo "wait..."
  else
    $GDB_PATH tcp:9090 --attach $PID
    break
  fi
done
```

これも基本間に合わない
soが全部ロードされてしまう状態

早期デバッグアタッチ

- Android (Root化端末)
 1. アプリをJavaデバッグモードで起動
 2. native debug serverを起動 / アタッチ
 3. native debug clientからnative debug serverに繋ぐ
 4. jdbをアタッチする (プログラムを実行状態に戻す)

早期デバッグアタッチ

- Android (IDA Pro)

on PC

```
$ adb forward tcp:23946 tcp:23946
$ adb shell am start -D -n your.package.name/xxx.yyy.ActivityName
$ for pid in `adb shell "ps | grep your.package.name" | awk '{print $2}'`;
do adb forward tcp:8700 jdwp:$pid; done
```

on Android

```
# setenforce 0
# ./android_server
```

in IDA

1. IDA->Debugger->Attach->Remote ArmLinux/Android debugger
2. アタッチしたいプロセスを選ぶ

on PC

```
$ jdb -connect "com.sun.jdi.SocketAttach:hostname=localhost,port=8700"
```

早期デバッグアタッチ

- Android (ndk-gdb)

on PC

```
$ adb forward tcp:9090 tcp:9090
$ adb shell am start -D -n your.package.name/xxx.yyy.ActivityName
$ for pid in `adb shell "ps | grep your.package.name" | awk '{print $2}'`;
do adb forward tcp:8700 jdwp:$pid; done
```

on Android

```
# setenforce 0
# ./gdbserver tcp:9090 --attach [pid]
```

on PC

```
$ gdb
(gdb)set architecture arm
(gdb)target remote :9090
```

on PC
(another shell)

```
$ jdb -connect "com.sun.jdi.SocketAttach:hostname=localhost,port=8700"
```

TIPS:

IDA debuggerもバグりがちで、ndk-gdbを使った方が安定でしょう

早期デバッグアタッチ

- iOS (脱獄端末)

on PC

```
# /Developer/usr/bin/debugserver 0.0.0.0:9090 {APP_PATH}
```

on PC
(another shell)

```
$ iproxy 9090 9090  
$ lldb  
(lldb) platform select remote-ios  
(lldb) process connect connect://localhost:9090
```

早期デバッグアタッチ

- iOS (入獄端末)

on PC

```
// 内製ツールapp-runner  
$ ./app-runner -r {APP_PATH}
```

on PC

(another shell)

```
$ iproxy 9090 9090  
$ lldb  
(lldb) platform select remote-ios  
(lldb) process connect connect://localhost:8080
```

原理：imobiledeviceを使ってdebugserverを立ち上げ、さらにアプリをdebugserverから立ち上げる。
<https://github.com/libimobiledevice/libimobiledevice>

* 弊社では利用している手法

早期デバッグアタッチ

- ***例**：起動時ファイルの復号
 - ❖ 先決条件
 1. ファイルの復号関数見つかったが、ロジックが複雑なので直接メモリからダンプしたい
 2. アプリが起動直後に復号関数が一回だけ呼ばれる
 3. 復号関数はlibgame.soにあるとする
 - ❖ 課題
 - ▶ libgame.soにある該当復号関数にbreakpointをかけて、メモリを読みたい！

早期デバッガアタッチ

- 解答

1. 早期デバッガアタッチする
2. `dlopen`にbreakpointを貼る
3. breakpointがヒットしたらr0/x0レジスターからライブラリの名前を確認
4. `libgame.so`だったら`dlopen`関数のretまで実行する
5. `libgame.so`にある復号関数にbreakpointをかける

ステップ3は反復実行されるので、IDAを使うか、gdbの場合は便利スクリプトを用意した：

https://github.com/nevermoe/debugger_scripts の

`stop_at_load {libname}` を使えば楽

(守) チート対策ソリューション

- 診断で使う攻撃手法無論チータも利用している
 - ❖ ==>クライアントセキュリティソリューションを導入するのが一般的

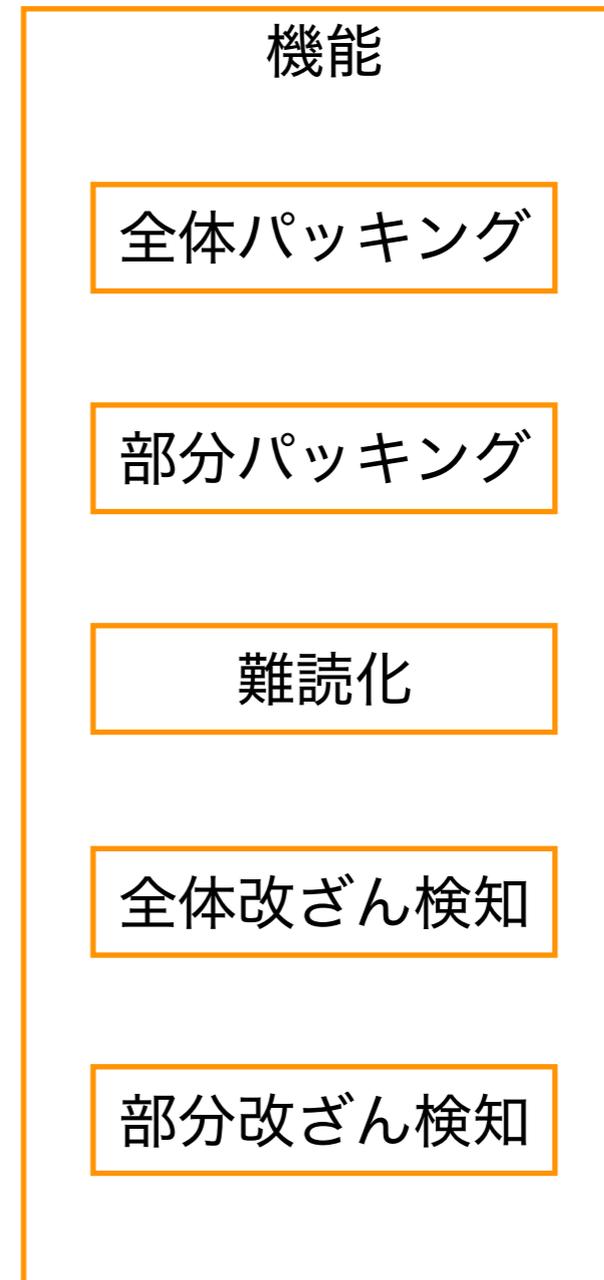
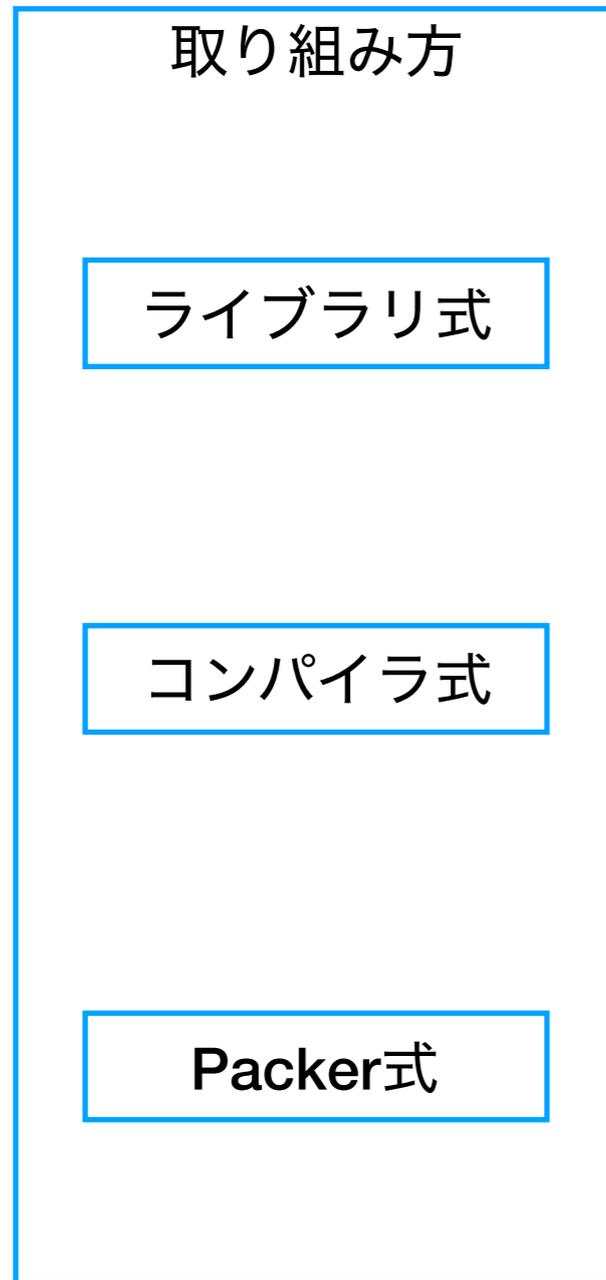
(守) チート対策ソリューション

- 取り組み方から分類
 - ライブラリ式
 - ❖ コーディング時に呼ぶ
 - コンパイラ式
 - ❖ コンパイル時適用
 - Packer式
 - ❖ 最終バイナリに適用

(守) チート対策ソリューション

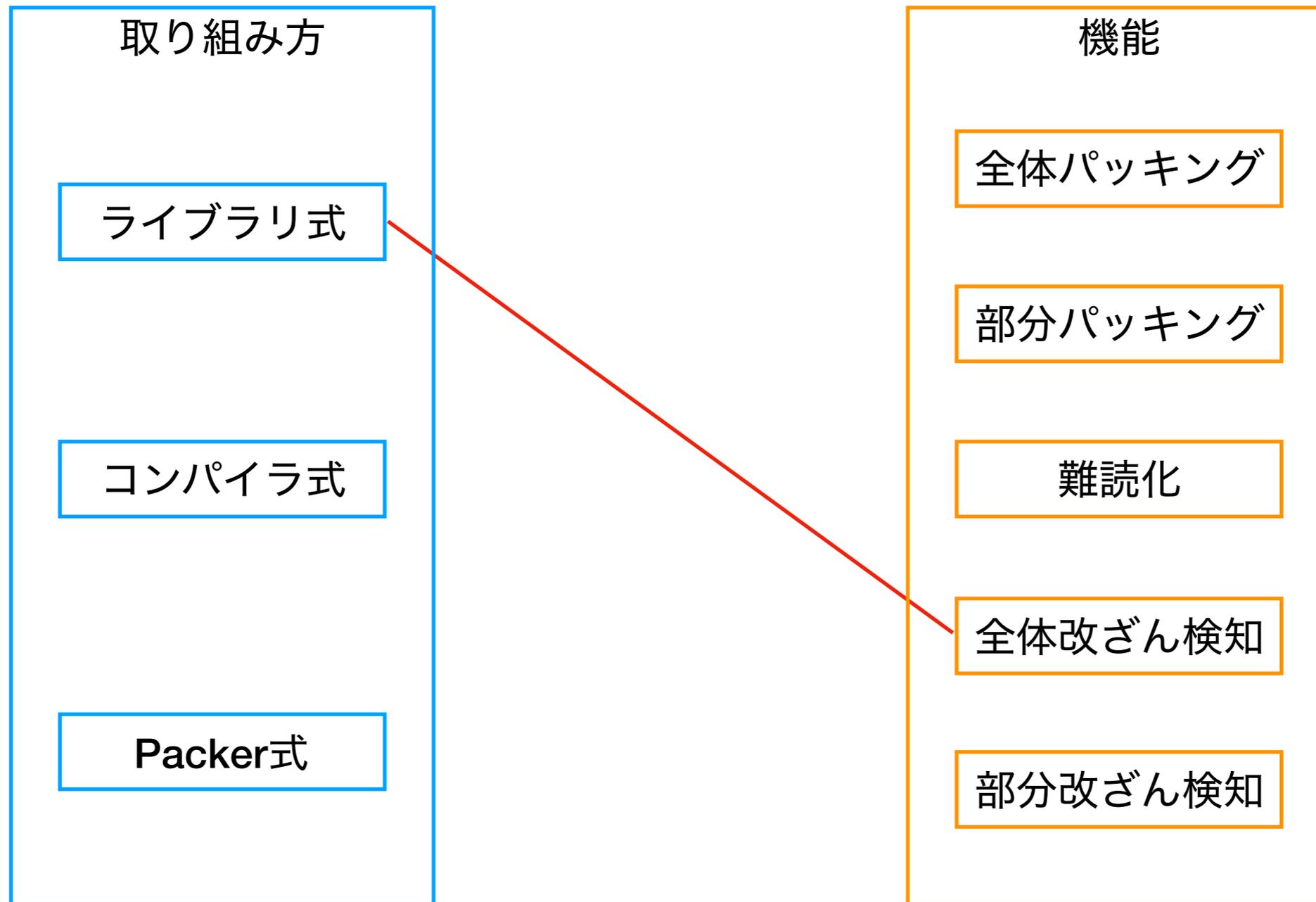
- 機能から分類
 - パッキング
 - ❖ 実行バイナリを暗号化
 - ❖ 部分的なコードを暗号化
 - 難読化
 - ❖ 一般的な難読化：Control Flow Flattening、デッドコード挿入などなど
 - ❖ VM難読化: ネイティブコードを独自の命令セットを解釈できるインタプリタを介して実行する
 - 改ざん検知
 - ❖ コード領域全体のチェックサムを照合
 - ❖ 部分的なコードのチェックサムを照合
 - Anti-decompile
 - ❖ Lua/Python/C#などのインタプリタにおけるopcodeを置換

組み合わせ

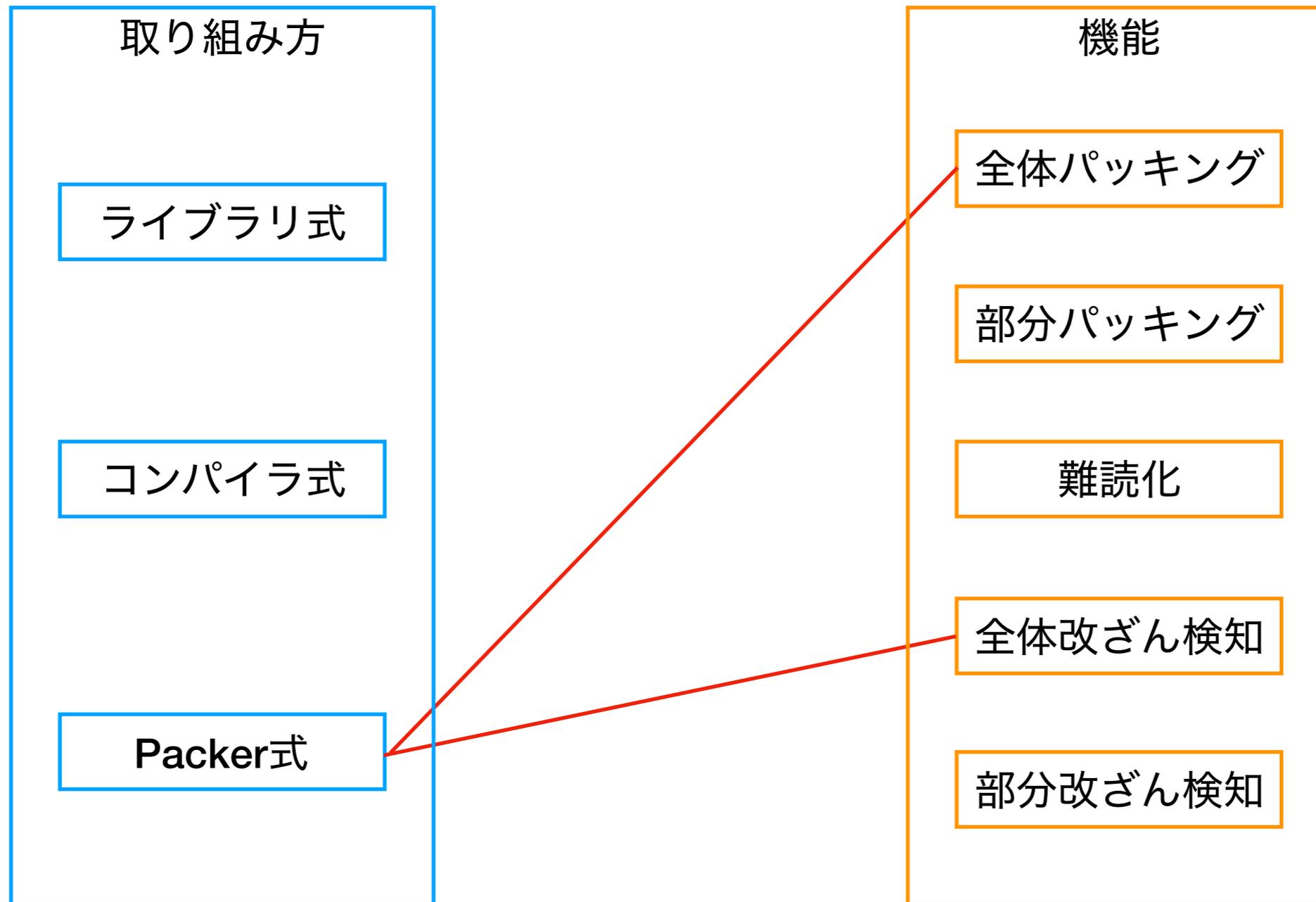


*ネイティブに着目するのでAnti-decompileを割愛します。

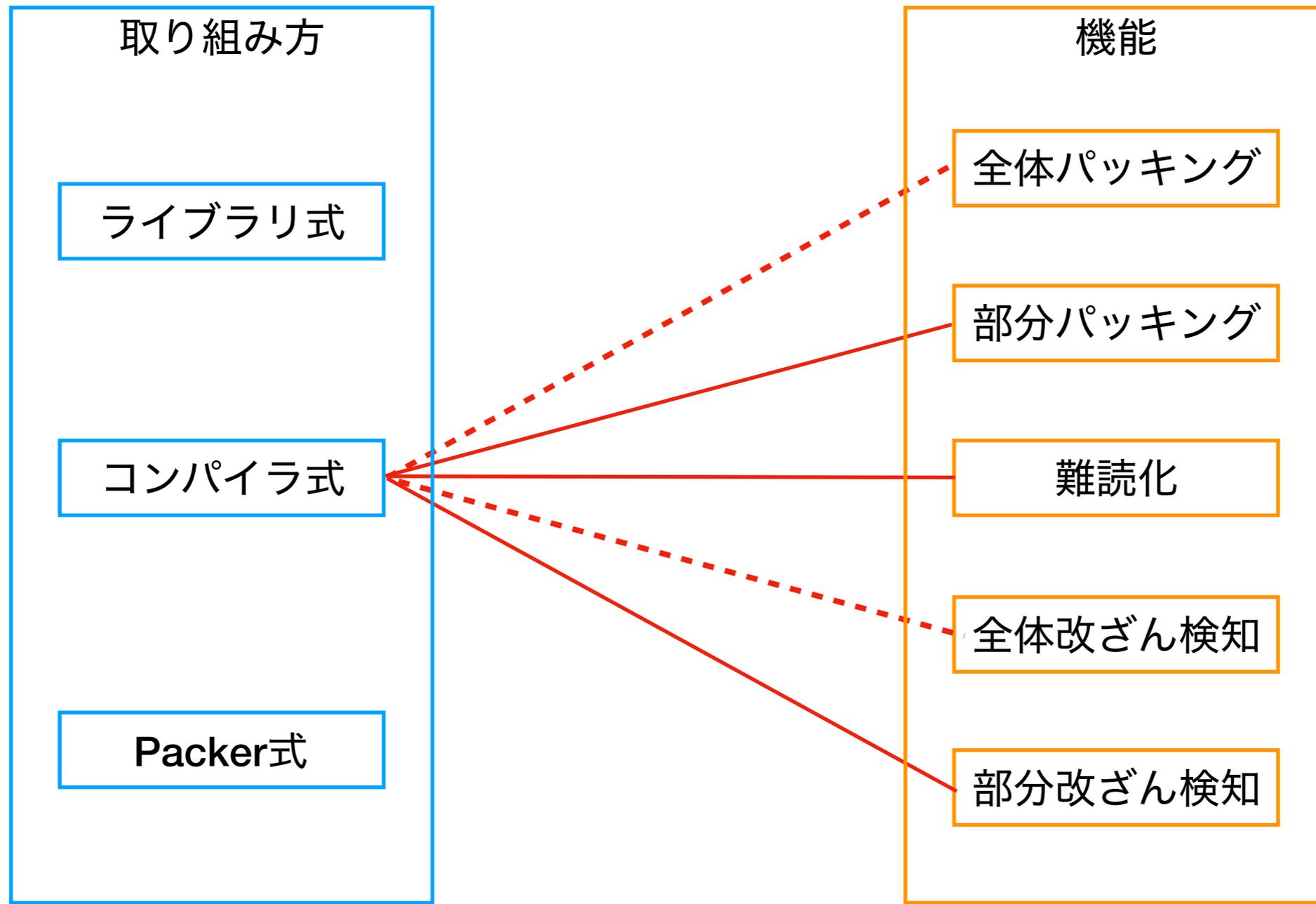
組み合わせ



組み合わせ



組み合わせ

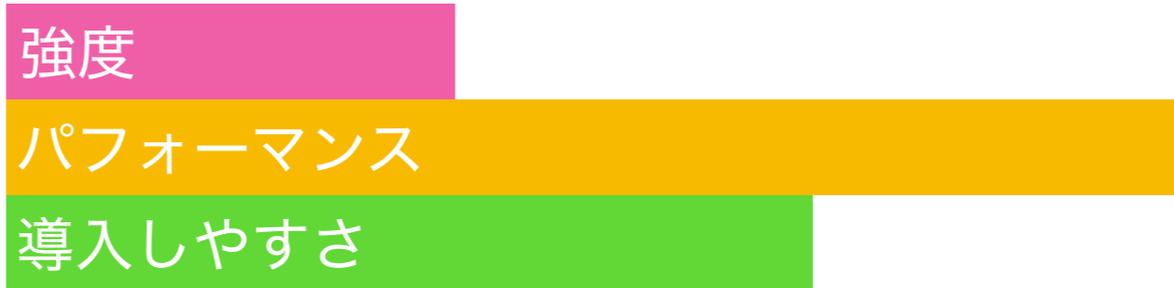


----- *できるがあんまりやらない

ソリューション考察

ざっくり：

ライブラリ式



低
高
中

コンパイラ式



高
中
低

Packer式



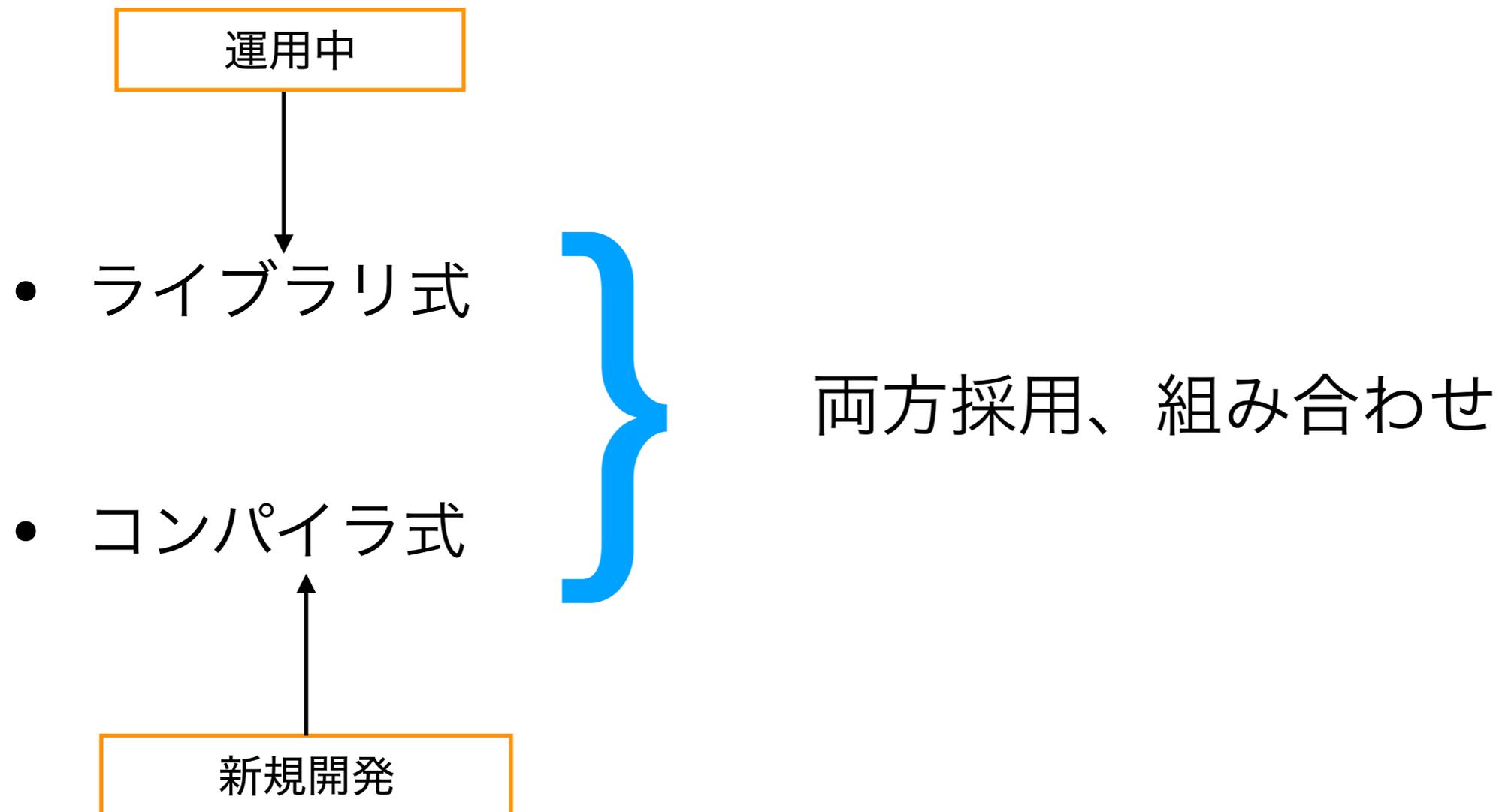
中
低
高

ソリューション考察

もうちょっと補足：

- ライブラリ式
 - ❖ 簡単に作れる
- コンパイラ式
 - ❖ パフォーマンスの微調整できる
 - ❖ iOSに対応できるメリットは大きい
- Packer式
 - ❖ iOSに適用できない

チート対策ソリューション



*参考：<https://engineer.dena.jp/2018/12/anti-cheat-tool-using-llvm.html>

コンパイラ式ソリューション

- 課題点
 1. 既存の(CIを含む)ビルドプロセスに統合できるか
 2. ビルド速度にどれぐらい影響あるか
 3. 開発者にどれぐらい負担かけるか

コンパイラ式ソリューション

- 課題点
 - 1.既存の(CIを含む)ビルドプロセスに統合できるか
 - 2.ビルド速度にどれぐらい影響あるか
 - 3.開発者にどれぐらい負担かけるか
- 解決案
 - ❖ **カスタマイズClang**を作る！
 - 1.Clangバイナリを置き換えるだけでビルドプロセスに影響無し
 - 2.余計なコンパイルしないのでビルド速度への影響が小
 - 3.Makefileなどを書く必要がない、configファイルを書くだけ

Clang改造

- 現状
 - iOSに適用できるPoCが完成、絶賛開発中。
 - Control Flow Flattening ✓
 - 部分的改ざん検知 ✓
 - 部分的パッキング
 - 文字列暗号化
 - などなど

サマリー

- デバッグできたならほぼなんでもできる
- 逆にコンパイラ改造できたなら？なんでもできる

ありがとうございます！